平成25年4月号

いやしのひととき

千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

春四月、野も山も人もにわかに動き出してまいりました。

皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、こんなアンケート調査がありました。「これからどんなリスクを心配していますか？」

非常に深刻な問題と認識している順番は、①相続税の増税リスク　②固定資産税の増税リスク　③所得税の増税リスク　④地震による資産価値損失リスク　⑤将来財政破たんが起きるリスク　⑥原発事故による資産損失リスク　⑦不動産の価値減少リスク　⑧株価の下落リスク　⑨今後のデフレ継続リスク　⑩将来のインフレリスク　⑪円安になるリスク　という結果でした。皆様は、一番ご心配なのはどの項目ですか？

しかし、これらのリスクは、「持ち運びが簡単」「換金が容易」「インフレヘッジになる」「ほかの金融商品との連動性があまりない」等、金の特性を利用すれば、ある程度緩和できます。特に「ゴールド積立くん®」は相続税対策にも効果を発揮しますので、リスク防衛にはピッタリな商品だと思います。

弊社では顧問会計士（税理士）を迎えての相続税対策セミナーも随時開催しております。ご希望の方にはご紹介もできますのでなんなりとご相談下さい。

気持ちのいい季節になってまいりますが、お体には十分お気をつけてお過ごしください。

ご存知ですか？

「小判一両の価値はコメ一石分」

「これ小判　たった一晩　居てくれろ」これは江戸時代の有名な川柳です。

今日では「月給」や「週給」「日給」といった支払いがありますが、江戸時代は年２回で、日々の生活用品は「つけ」で買っていました。ものが足りなくなれば「つけ」で手に入れることが出来たのですが、半年に一回、支払いの期限が来ます。半年の間、一生懸命働いて稼いだ給料の小判がほとんど「つけ」の支払いに消えていきます。手にした小判に対し「たった一晩　居てくれろ」と話しかけたくなる気持ちは、ローンを抱える今のサラリーマンと変わらないでしょう。

では、小判一両の価値はどれくらいだったのでしょうか？日本銀行によりますと江戸時代中期頃は「米一石が約一両」だったそうです。一石とは１０斗＝１００升＝１，０００合。　１合の米を炊くとお茶碗１杯のごはんになります。大体成人一人が一年間で食べるお米の量が一石でそれが一両の価値でした。それを稼ぐには約２０日働かなければなりませんでした。

暮らしの足し算

趣味を通じて仲間と出会う新サービス

仕事があったり家庭を持ったりすると、友達と予定を合わせるのが難しくなってきます。やってみたいことや行ってみたい場所があっても「一人だから」と諦めてしまうこともあるでしょう。もしくは、同じ趣味の人が周りにいないので寂しい思いをしているかもしれません。

そんなときは「Playcast（プレイキャスト）」を活用してみませんか。自分がやりたい遊びを投稿して、一緒に遊ぶ仲間を募集する新しいサービスです。

たとえば「○○が好きな人カラオケに行きましょう！」などと投稿すると、それを見た同じ趣向の人が集まってきて、実際にそのメンバーでカラオケを楽しむという流れ。フェイスブックのアカウントでログイン・登録して、日時や待ち合わせ場所を決めたりするやりとりはフェイスブック上で行います。

募集する遊びのカテゴリーは「カラオケ・アミューズメント」「飲み会・食事会」「スポーツ・アウトドア」「インドアゲーム」。遊ぶ地域を選択して、「こんな人に来てほしい」というコメントを付け、日時候補や予算などを入力したらあとは参加希望の反応を待ちましょう。オフ会でもイベントでもなく、やりたい趣味の仲間を募集して実際に一緒に楽しむこのサービスは、「やりたいことがあるけれど一緒にやる人がいない」という人にとって救世主のようなサービスと言えそうです。

【Playcast】http://playcast.jp/plans

命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。
しかし、苦境にあっても、
天を恨まず、運命に耐え、
助け合って生きていくことが、
これからの私たちの使命です。

――宮城県気仙沼市階上中学校答辞より

なごみひとさじ

東日本大震災から三度目の春が訪れました。なかなか進まない復興と復旧の陰で今でも多くの人が苦しんでいます。その一方で、すでに過去の出来事として片付けてしまった人も残念ながらいるようです。

大惨事も大事件も世間的には少しずつ風化していきます。自分と直接の関わりがなければ人の心の中でも風化していくでしょう。それを責めることはできません。けれど当事者の中で風化することは決してなく、謙虚なまでに辛さや悲しみを受け入れて、これが自分たちの使命だと懸命に今日を生きています。

だからこそ大事なのは、かつて大惨事が起こったことを忘れないこと。それによって悲しみ傷ついた人がいた事実を忘れないことではないかと思います。直接何かできるかは別としても、「忘れないこと」がいつの日か「次の一歩」になってほしいと願います。

おいしい毎日のススメ

主語は「私」で

映画館の前で若いカップルが口げんかをしていました。

「もぉ、遅いから映画が始まっちゃったよ。この前も遅刻したよね。何でもっと早くうちを出るとかしないわけ?」と怒る彼女に彼は、「しょーがないだろ。ケータイ忘れて取りに戻ったんだから」と、いわゆる逆ギレ。当然彼女はますます怒って、人目を引くほどの言い合いになっていました。

遅刻して逆ギレするのは状況的におかしなものですが、彼が素直に謝れなかったのは彼女の言い方にも問題があったのかもしれません。

彼女は遅刻した彼に対して怒っています。しかも続けて二回の遅刻です。映画を楽しみにしていたのですから悲しくもあったでしょう。けれど、その気持ちを次のように伝えたら彼は逆ギレしたでしょうか。

「連絡もないから心配しちゃった。この映画すごく楽しみにしてたの。最初から観たかったな」

言い方の違いは「主語」にあります。実際の彼女は、

「(あなたが)遅いから……」

「(あなたは)この前だって……」

「(あなたは)何でもっと……」

表面的には見えませんが、すべて「あなた」を主語にして怒っていました。一方の言い方は、

「(私は)心配しちゃった」

「(私は)すごく楽しみにしてた」

「(私は)最初から観たかった」

こちらはすべて主語は「私」です。

単に主語の違いだと思うかもしれませんが、受け取る側にしてみるとこれは大きな違いです。

自分が感情的になっているとき「あなた(YOU)」を主語にしてメッセージを送ると、いくら冷静に話しているつもりでも結果的に相手を責める形になってしまいます。相手にしても、「あなたが悪い」「あなたのせい」と立て続けに言われたら、自分が悪かったと反省しつつも素直に認められず、遅刻した彼のように逆ギレしたくなるものです。

一方、「私(I/アイ)」を主語にして、「私はこんな状況で、こんなふうにしてほしかった」という気持ちで伝えると、「そうだったのか。それはなんとかしてあげたい」という相手をおもんばかる余裕が生まれやすくなります。責めるのではなく愛(アイ)を伝えるつもりでメッセージを送ったほうが、相手も話に耳を貸しやすくなるでしょう。

気持ちのズレはちょっとしたことで起こります。逆に言えば、ちょっとした気遣いがあれば気持ちのズレも避けられます。単に主語を「私」にすればいいわけではなく、自分の言葉が相手の心にどう響くかを考えながら「愛(アイ)」のメッセージを送りましょう。

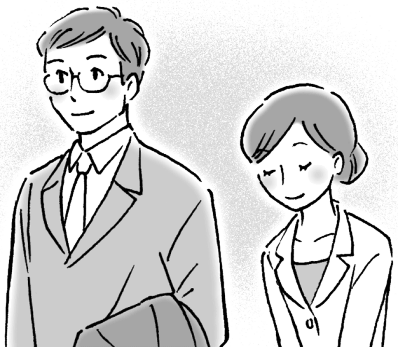
心得の教科書

「和」のマナー

外国では女性を優先する「レディーファースト」がマナーです。一方、日本では武士道が基本になっています。華道や茶道はもともと男性のたしなみとして広がったことから、「和」の場面では「男性が先、女性が後」が基本なのだそうです。

たとえば、旅館や料亭の玄関は男性が先に入り、女性は男性の後からついていきます。部屋に通されたら上座に座るのは男性。座布団をすすめられたとき先に座るのも男性です。つまり和のマナーとは、女性として男性を立てる振る舞いです。

和の場面でのマナーを「男尊女卑」だと感じる女性もいるようですが、おもいやりの心を形で表したものがマナーであり、和のマナーは「日本人の心」を大切にする気持ちに通じる振る舞いだと捉えてみたらどうでしょう。洋の場面では男性にリードしてもらい、和の場面では男性を立てる。シチュエーションによってマナーを使い分けられる人は、礼節をわきまえた大人の女性として一目置かれるでしょう。



学び直しの日本語クイズ

正しい使い方はどっち？

【1】A：まんまと失敗した ／ B：まんまとだまされた

【2】A：犯人の特徴 ／ B：犯人の特長

【3】お体ご自愛ください ／ B：ご自愛ください

【1】まんまと

「まんまと」は「うまうま」から転じた副詞で、「思いどおりにうまく」「見事に」「首尾よく」という意味です。「まんまと引っかかった」などのように悪事に使います。正解はBの「まんまとだまされた」。

【2】「特徴」と「特長」

「特徴」はほかと比べて特に目立った点。「特長」はほかよりもすぐれている特別の長所。したがって「犯人の特長」と書くとおかしな意味になります。正解はAの「犯人の特徴」。

【3】自愛

「自愛」とは自分の体を大切にするという意味。「お体ご自愛ください」は「頭痛が痛い」と同じ重言（二重表現）になってしまいます。正解はBの「ご自愛ください」。